

令和5年度 市長とちよこっトーク（藤原地域） 会議結果（要旨）

日時	令和5年9月29日(金) 15時～16時30分
参加者	日光市長 藤原地域まちづくり協議会 6名
テーマ	私たちの地域を『高齢者が元気に暮らせるまちづくりをするためには』どのようにしたらよいか
意見交換	<p>【課題1】 既存の地域内公共交通機関では課題が多く、地域の足に十分になっていない。買い物や病院通いなどにおける移動手段をどう確保するか。</p>
	<p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動の手段として、身近な方が自家用車で送迎を行うことはできるが、事故の補償、保険対応に問題がある。また、社会福祉協議会の試行的事業の取り組みの中に「移動手段の確保」があり、移動支援事業を継続的に実施するには市の協力、まちづくり協議会との検討が必要だと思ふ。 ・一例として、前橋市ではマイナンバーカードを活用したタクシーによる高齢者等の移動支援がある。 ・移動支援を検討するうえで、他の地域の先事例も参考にしてみたらよいと思ふ。 ・デマンド運行には、多額の費用がかかっており、公共交通機関事業者では、人手不足が課題になってきていることから、事業が持続的になる方法を考えなくてはならない。 ・公共交通機関を利用するにも、身体が不自由な方も多いが、民生委員や包括支援センターに相談して移送サービスを利用する方法もある。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動の目的を二通りに分けて考えると「元気な高齢者の気軽なお出かけ」と「介護等が必要な人の移動」になり、後者については、要介護者等への支援として福祉有償運送といった移送サービスを行っている。 ・市の事業として行う場合、国県の補助金を活用したいが、その場合は制約事項や課題が多い。デマンド方式では利用者数が伸びず費用だけが高むことがある。 ・「高齢者の移動」と聞いてどのような行先を想定しますか、との市長からの問いに対する参加者の回答は、以下のとおりであった。 「元気な高齢者の気軽なお出かけ」→ スーパーマーケット、病院、銀行、市役所(行政センター) 「介護等が必要な人の移動」→ 買い物の付き添い、代行
意見交換	<p>【課題2】 生きがい、自分の居場所、楽しくすごせる場があったらよい（それも近くて、仲間がいるようにする）</p>
	<p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域で過ごすことができ、身近なところで様々なグループ活動が盛んになれば、生きがいを感じる機会が増えて、健康的な生活を送る事ができる。 ・自由ヶ丘地区には集会所があるが、近所にないので、集まりの機会がなかった。上滝地区は集会所はないが、上滝地内のキャンプ場の一角を借りて集まりを実施している。集会所等への移動手段も必要だが、公共交通機関は本数が少なく利用しづらいことや、運賃が高価なため安価に利用できればいいと思ふ。 ・老人クラブの集まりで自治公民館を利用できないケースがあると聞いた。 ・デイサービスセンターの車両を送迎の空き時間で、他の用件に活用できないか。 ・近くの公園に簡単な健康づくりができる器具があるといい。 ・身近なグループ活動として、グラウンドゴルフ参加者が多かったが、最近は参加者が減少気味のようなうた。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤原地域ではオアシス事業所など、地域の居場所を9か所設けている。 ・歩いて行ける範囲、自治会単位で集まりができればいいが、運営を担う方々の確保が大変である。 ・グラウンドゴルフは、新型コロナの行動制限の時に参加者が減少したようだ。対面で行うことに抵抗があったのではないかと考える。 ・高齢者の自治会活動への参加状況はどうか、との市長からの問いに対する参加者の回答は、以下のとおりであった。 ⇒ 清掃活動などの負担が大きいと感じて参加しない方がいる。

意見交換	<p>【課題3】高齢者を見守る体制づくりを組織的に作ること</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の中には、他の人と関わりたくない、頼りたくないと思っている方がいるため、自治会に加入していない方もおり、民生委員として対応が難しいと感じている。塩谷町では一対一の見守りをしているところがある。 ・滝見通り自治会では、自治会の加入未加入に関わらず参加できるイベントを開催しており、いずれ加入につながればよいと思っている。 ・見守りの必要性は感じるが、どこまで関わっていいのか迷っているが、企業活動の中で、もしもの時の連絡先を共有するなどの、見守りができればよいと思っている。 ・元気な高齢者がお出かけすることは、本人の意識が向上するので、健康維持に効果が大きい。気軽に出かけられる環境づくりとして、移動支援や行動支援が必要と思っている。 ・藤原の社会福祉協議会で生活支援事業を検討しているが、今後の事業継続のために市の助成も検討してほしい。 ・スクールバスや庁用車の空き時間を活用して、移動支援を行うことはできないかと思う。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の自治会でも、個人カードを作成して見守りをしているところがある。 ・見守りについては、いくつかの企業と提携している。 ・足尾地域のまちづくり協議会では、お助け制度の実施を検討している。「助け合いの力」を「お金」の形で地域循環を目指す事業である。 → 藤原の社会福祉協議会でも同様の事業を検討している。イベント支援から生活支援にシフトしようとしている。地域限定基金を活用する予定。 ・スクールバスや庁用車の空き時間の活用については、他の公共交通機関があり競合してしまうため、活用には課題もある。市営バスのような公共交通機関は、もっと利用してほしい。
その他	<p>【その他】 地域集会所の維持について</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の集会所の譲渡を受けたが、自治会員の減少もあって、今後の維持管理に不安を感じる。市では助成などは考えているか。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ助成などはない。集会所の地域への譲渡はまだ継続中なので、今後の在り方は検討していきたい。